

又この端子には、つぎのAUXと同じく、FM-AMチューナーやテープ・レコーダーの出力をつないでも差支えありません。

●AUXには、FM-AMチューナーやテープ・レコーダーの出力をつなぎます。

●プログラム・ソースがモノラルの場合は、L・Rいずれか一方の入力端子につなぎ、アンプ前面のモード・スイッチをMONOにしてください。

●マイクロフォン、テープ・ヘッドの場合は、直接つなぐことはできません。

適当なプリアンプにより0.2V又はそれ以上に増巾してから、AUX端子に接続します。

②録音端子(REC. OUT)の出力は、テープ・レコーダーの入力端子につないで録音することができます。この場合イヤ・スピーカーも同時に聴けますから、録音状態をモニターすることができて便利です。

② つぎにアンプの前面は……

①EAR-SPEAKERと表示のある出力コンセントにイヤ・スピーカーをつなぎます。イヤ・スピーカーのプラグの白線を、出力コンセント上部の黒線に合わせて挿入します(その他の向きでは挿入できません)。

②ボリューム・コントロールは最小の位置に(左へ一杯)絞っておきます。

③入力切換スイッチを、希望のプログラム・ソースに合わせてセットします。

④モード・スイッチを、プログラムに応じて、ステレオ又はモノラルに切換えます。

調 整

電源コードを電灯線につなぎ、電源スイッチをONにします(パイロット・ランプが点灯します)。

①ボリューム・コントロールを徐々に大きくして(=右へ廻して)、適当な音量でお聴きください。

②ボリューム・コントロールは2重ツマミになっていて、手前側が右チャンネル、向う側が左チャンネルで、別々に調整できます。左右の音量バランスが崩れているときは、ツマミを左右別々に調整してバランスをとってください。

③フィルターは高域雑音を抑えるハイ・カット用で、レコードのスクラッチやテープのヒスを減少させたい場合に用います。

イヤ・スピーカーについてご注意いただきたい点

■イヤ・スピーカーは6 μ 厚という極薄の振動膜を使っているので、本体を手で抑えつけると膜が変位して固定極に接触するため、バチリという放電雑音を出します。ご使用にあたっては手で抑えつけないようご注意ください。

■2本のツル(=頭部金具)は、これを開けば側圧(=耳当パッドの当り工合)が強くなり、閉じれば逆に弱くなります。もっとも掛け心地のよいように調節してください。

■パッドを耳の前方・後方に移動することにより、音質が多少変わります。ご自分の好みに合った位置をさがして、その位置が簡単に得られるよう習熟してください。

■音量が過大になると、振動膜が固定極に接触して放電雑音を出しますから、バチバチという雑音の出ない範囲の音量レベルでお聴きください。

■コードはアンプに対し容量性負荷になるため現在以上に長くするのは好ましくありません。コードを長くする必要のあるときは、別売の低容量・延長コード(4m)を併用してください。